

蟹座の情熱

「母性的・家庭的」と表現されることの多い蟹座ですが、多くの人は、自分はそんなことないのにと感じています。母性的と言われると、誰にでも優しく何でも受け入れる人というイメージが湧きますが、蟹座の人は決して、誰にでも優しいわけでも、家にこもっているわけでもありません。

蟹座の本質は、その「甲羅」にあります。硬い殻の中に自分の膨大な感情をしっかりと守っています。「感情」は、星占いの世界では「水」に例えられます。水は、何か入れ物が無ければ、流れ去ったり飛び散ったりしてしまいます。蟹座の人々は、人一倍多量な感情の水を持っています。ゆえに、それが暴れだして大変なことにならないように、しっかりした甲羅の中に水を入れて管理しているわけです。

蟹座の人が「母性的・家庭的」と言われるのは、その甲羅の仕組みに由来しています。蟹座の人の甲羅の中は、一つの小宇宙のようになっています。外界に対しては閉じているのですが、その中にいろいろなものを招き入れることができます。そして甲羅の中に入れたものを、蟹座の人は自分自身と同じように扱います。親友や愛する人、好きなもの、認めたものすべてを甲羅の中に招き入れて、それを全力で守りながら生きるのが蟹座の在り方です。

この「内側に入れたものが、自分と同じ」という感覚が「母性的・家庭的」のイメージにつながっているのです。逆に血のつながった家族であっても、気が合わなければ甲羅の外に放り出します。そして、蟹と同じく成長に従って脱皮がおこります。古い殻を脱ぎ捨てて、新しい殻を獲得して大きくなっていきます。

ここで、有名な神話を。英雄ヘラクレスが怪物ヒュドラを倒そうとしたとき、大蟹が親友のヒュドラに加勢しました。ハサミでヘラクレスの足をはさもうとしましたが、英雄は蟹を片足でグイと踏み殺してしまいました。ヘラはこの蟹の勇気を憐れみ、星座にしたのです。この蟹には何の名前もありません。無名の蟹が、儂い脇役として消えていきます。しかし、どんなに優れた人だろうと、どんなに幸福な人だろうと、死はこの蟹の死と大して変わりはありません。また、大蟹は自分の忠誠や友情という熱い思いに従って生き、死にました。そこに恐らく悔いはなかったでしょう。

私たちの人生が他ならぬ私たち自身のものであることを、蟹座の神話は静かに語っています。人にどう評価されるとか、長生きするかとかは関係なく、自分の思いのままに生きて儂く死ぬのが真実なのでしょう。蟹座のこの情熱は、甲羅の中に隠されていて、外からは見ることができません。殻の外側にいる第三者から見て、どんなに儂く惨めであっても、甲羅の中に愛や情熱が燃えている限り、その「生」は全く惨めではありません。この真実を、蟹座の神話は赤裸々なほどに、ありのまま表現しているように思えるのです。(一部改変)

ただ私自身の反省からすると、人を支配・束縛しようとするところが曲者です。俺の中に来たら何者からも守ってやるという気持ちが強すぎるのかも。